

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

社員のスキルを継続できなければ競争力を失う

- 2025年は「AIエージェント元年」。自律的に働く優秀なAIが次々と投入されている。いずれはヒトとAIと同列にマネジメントされることになるだろう。問われるのは「スキル」だ。AIができることは明確。ではあなたは何かができるか。社員が持つスキルを継続的にアップデートできない企業は容易に競争力を失う。AI時代はスキル全盛の時代でもある。乗り越えるには社員に学び直しを促すほかない。
- 三菱商事は27年度からAI資格を管理職の昇格要件に加え、数年後には役員も含む全社員に取得を必須にすることも検討している。社員にAIの基礎知識を身に付けてもらうことで、生産性の向上はもちろん、AI事業の構想にもつなげたい考えだ。
- 神奈川県秦野市の温泉旅館「元湯陣屋」。2009年から女将（宮崎知子）を引き継いだ当時、経営は火の車だった。対策として、「DX」と「社員のリスクリング」に取りかかり、まずはシステムエンジニアを採用し、「陣屋コネクト」を開発。業務フローや顧客データを統合し、全社員にタブレットを配備した。数年後には黒字に転換し売上高は10年で倍増した。
(参考:「日経ビジネス」2025年5月26日号)

経営者のための危機管理

ルネサスとローム「非AI」半導体の苦境

- AI（人工知能）ブームで急成長した半導体業界は、「AI以外」の半導体企業の苦境が深刻化している。特に厳しい状況にあるのが、ルネサスエレクトロニクスとロームだ。
- 世界の半導体市場は過去最高のペースで拡大している。米国半導体工業会が4月4日に発表した2月の世界における半導体販売高も前年同月比で17.1%増となり、2月として過去最高を記録。前年同月比の増加は16カ月連続で、力強い成長を続けている。TSMCがAI半導体向けの受託生産を増やす恩恵を受け、日本の東京エレクトロン、アドバンテスト、ディスコをはじめとする日本の半導体製造装置メーカーも業績を伸ばしてきた。
- だが、その一方で、こうしたAIのサプライチェーンに属さない半導体メーカーの業績は厳しい。特に、自動車向けや産業機器向けを主力とするルネサスエレクトロニクスとロームは苦境に陥っている。そこにトランプ米大統領が打ち出す関税や電気自動車（EV）義務化の撤廃が追い打ちをかけている。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2025年6月14日号)

ワンポイント経営アドバイス

企業文化が違うからこそM&Aを

- 経済産業省は2023年8月に「企業買収における行動指針」を公表した。企業価値を高め、株主の利益になるM&A（合併・買収）の活発化を目指したものだ。ただし同意なきM&Aについては、買収する側・買収される側、どちらの立場にしても抵抗感が強いようだ。双方の文化の違いや経営陣の意地などが障壁となり、なかなか増えない。だがそれでいいのだろうか。文化が類似する企業同士の合併は、統合作業はスムーズかもしれない。だが、そこから何か新しいものが生まれるとは思えない。
- 多様性が重要な昨今、異なる企業文化の融合にこそ価値があるのではないか。統合に際し文化の違いを「克服すべきハードル」と否定的に捉えるのは正しくない。「新しい価値を生む源泉」と前向きに捉えるべきだ。世界の大企業はM&Aによって成長を加速してきた。もちろん企業文化の衝突はある。それはあって当たり前という前提である。

(参考:「週刊東洋経済」2025年5月31日号)

古典に学ぶ

ぶれることのない一生を貫く

- 空海は、仏教を究め、人々を救うという願いを軸に、ぶれることのない一生を全うしました。あなたの中にも、必ずあなた自身の北極星があります。
- その輝きさえ見失わなければ、どんな時代が来ようと、環境がどう変わろうと、確信を持って自分自身の生き方を貫けるでしょう。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)